

表現学会メールマガジン

第5号
(2025年5月)



目次

- ✿ 会員からのリレー・メッセージ (第5回)
- ✿ 第62回全国大会のお知らせとメッセージ
- ✿ 『表現研究』122号投稿&各地区例会発表者募集のお知らせ
- ✿ 広報委員会主催第2回オンライン例会報告
- ✿ 表現学会ブログ公開のお知らせ

✿ 編集後記

表現学会広報委員会

❖◆ 会員からのリレー・メッセージ(第5回) ◆❖

些細な表現に興味を惹かれることがある。

たとえば、「伊勢物語」第9段の、修行者と隅田川の渡守のことば遣いの違い。

宇津山で男たち一行に遭遇した修行者は驚いて、「かゝる道はいかでかいます」と尊敬語を用いて尋ねる。一方、渡守は、都から遠く離れたことを嘆く男たちに「はや舟に乗れ」と、敬語を用いずに乗船を命じる。修行者は都で面識のある人物であり、渡守は、男と初対面であろうが、その外見から貴族であることを認識しえたはずである。絶対敬語の平安時代において、男に敬語を用いる修行者は、都の文化を共有しうる人物というイメージを、男に敬語を用いない渡守は、都の文化を共有しえない、無教養で、がさつな田舎者というイメージを、このことば遣いの違いから読み取ることができるのではないか。

あるいは、「竹取物語」の内侍中臣房子のことば遣い。

勅命を受けて、かぐや姫の検分に翁の屋敷を訪れるが、かぐや姫の拒絶に「国王」(諸本「国王」。大秀本「こくわう」という語を用いて反駁する。和語「みかど」を用いず、「国王」を用いたのは、漢語の有する硬質な語感によって、反語表現2文と禁止表現1文とで構成する、房子の威圧的な発言をより効果的に表現するためであったのではないか(かぐや姫の返答の「国王」は、房子のことばを受けたのであろう)。

一度きり(一例だけ)の表現であっても、表現研究の対象とすることができる、否、そういう表現にこそ「表現」がある——最近、しばしば思うところです。

長沼英二(明治大学兼任講師)

※次回は、高崎みどり先生(お茶の水女子大学名誉教授)のリレーエッセイです。

❖◆ 第62回全国大会のお知らせとメッセージ ◆❖

2025年6月7日(土)～8日(日)、岐阜大学(柳戸キャンパス)にて、第62回表現学会全国大会が開催されます。

岐阜大学佐藤貴裕先生によるご講演と、シンポジウム(テーマ「国語教育・日本語教育における作文と表現」)が7日(土)に予定されております。研究発表は、8日(日)に行われます。

全国大会に参加するには、会員の方も申し込みが必要です。表現学会HP・「全国大会」のページにある「[全国大会のお知らせ](#)」内の「[参加申し込みフォーム](#)」にご記入の上、お申込みください。締め切りは、2025年5月29日(木)です。

全国大会の詳細は、表現学会 HP の「[全国大会のお知らせ](#)」をご覧ください。同ページ内の「[大会プログラム\(PDF\)](#)」には、シンポジウム・研究発表の発表要旨の掲載もございます。

表現学会第 62 回全国大会

期日：2025 年 6 月 7 日(土)～ 8 日(日)[研究発表は、8 日(日)]

会場：岐阜大学柳戸キャンパス 全学共通教育 F 棟 105 講義室(両日とも)

第 1 日(6 月 7 日(土))

◇開会(13:00 受付は、12:30～)

◇公開講演(13:10～14:20)

「節用集」の近現代表現史 岐阜大学 佐藤 貴裕

◇シンポジウム(14:30～17:00)

テーマ：国語教育・日本語教育における作文と表現 司会 国立国語研究所 石黒 圭

児童作文の段落分け 富山大学 宮城 信

大学生の執筆プロセスに見る文章構成 中央学院大学 田中 啓行

学習者縦断作文コーパスに見る中国人学習者の説明文の特徴 京都先端科学大学 前川 孝子

学習者縦断作文コーパスに見る多言語話者の接続詞の特徴 国立国語研究所 石黒 圭

◇総会(17:00～17:20)

第 2 日(6 月 8 日(日))

◇研究発表

午前(10:30～12:00)

新聞三社における句読法の時代的変遷

早稲田大学(院) 高橋 愛子

川上未映子の『ヘヴン』に対する認知文体論的アプローチ

帝塚山学院大学 伊計 拓郎

午後 I 部(13:30～15:00)

サッカー報道に見られるメタファー表現—新聞記事の考察から

国土館大学 梶原 彩子

カン・ハンナ短歌における「海外詠」の考察—五感表現を中心として—

城西大学 草木 美智子

午後Ⅱ部(15:00~16:30)

日本語感謝表現『ありがとう』の成立

名古屋大学言語教育センター／三重大学国際交流センター／神戸学院大学(非) 百瀬 みのり

百人一首歌の和歌表現史的な捉え直し

共立女子大学名誉教授 半沢 幹一

◇閉会(16:30)

会場校幹事の小林一貴先生と、シンポジウム司会の石黒圭先生よりメッセージをお寄せいただきましたので、以下に紹介します。

小林一貴先生のメッセージです。

第62回表現学会全国大会の会場校を担当いたします、岐阜大学の小林一貴と申します。

岐阜市へのアクセスは、JR名古屋駅から在来線で約20分、名鉄名古屋駅から約30分、中部国際空港からは鉄道で約1時間です。JR岐阜駅、名鉄岐阜駅から会場の岐阜大学柳戸キャンパスへはバスで約30分、タクシーで20分です。ご移動でご不便をおかけいたしますが、大学へのご移動の途中では金華山山頂の岐阜城や長良川の清流など深緑の季節を感じていただけるものと思います。

皆様のお越しをお待ちしております。

石黒圭先生のメッセージです。

日本語作文のシンポジウムのご案内(国立国語研究所 石黒圭)

表現学会は、表現のことであれば、言語を問わず、分野を問わず、受け入れてくれる間口の広い学会です。その寛容さに魅力を感じる会員の方は、きっと多いでしょう。

そうした表現学会のこれまでのシンポジウムは、広く一般に開かれた、わかりやすいテーマと、専門性のきわめて高い、密度の濃いテーマに分かれるように思います。最近のシンポジウムは、後者の密度の濃いものが多数派を占めており、専門性の高いコアな議論に、他分野の方も刺激を受け、研究の示唆を得ることも多かったのではないのでしょうか。

しかし、今回はそれとは異なり、一般向けのわかりやすいテーマのシンポジウムになりそうです。テーマはずばり「日本語の作文」。日本語で書かれるのが基本の『表現研究』の筆者であり読者である会員のみなさまは、日本語の作文と無縁ではありません。また、大学や高専等で教鞭を執られる先生方は、学生が書いてくるレポートと格闘する日々を送られているはずです。私の専

門は日本語教育ですが、留学生に日本語を教えておられる先生方も、きっと学生の作文に日々悩まされていることでしょう。

児童・生徒、そして学生が書いたナマの作文を材料に、作文と縁が深いみなさまとじっくり議論がしたい。今回のシンポジウムを企画した趣旨はそこにあります。シンポの前半は、児童・生徒の作文分析の第一人者である宮城信氏(富山大学)と、大学の初年次教育・リメディアル教育での発信急増中の田中啓行氏(中央学院大学)が、シンポの後半は、中国語話者の作文分析で最近注目を集める前川孝子氏(京都先端科学大学)と、海外 20 大学の縦断作文コーパスを絶賛構築中の石黒圭(国立国語研究所)が、それぞれ担当します。私たちが日常目にする「日本語の作文」をめぐる、それぞれの立場から多角的な議論ができる貴重な機会、ぜひ岐阜まで足をお運びください。

＊ひつじ書房 出展のご案内

本全国大会では、会場にてひつじ書房様の出展が両日ともございます(会場は、全学共通教育 G 棟 1D 講義室)。書籍の閲覧・購入も可能です。ぜひお立ち寄りください。

＊全国大会会場・全学共通教育 F 棟(岐阜大学柳戸キャンパス)の建物配置図  地図のリンクは [こちら](#)



 [全学共通教育講義棟](#)です。



＊岐阜大学までの交通アクセス

 [岐阜大学 HP](#)

([こちら](#)から JR 岐阜から大学までのバス時間を調べることができます)

『表現研究』122号投稿&各地区例会発表者募集のお知らせ

『表現研究』122号(2025年10月発行予定)の投稿の締め切りは、6月30日です。

「[投稿規定](#)」は、表現学会 HP の「[学会誌](#)」のページに掲載がございます(『表現研究』最新号も併せてご確認ください)。

また、各地区例会(東京・名古屋・近畿・広島)の発表者を募集しております(東京例会は、1月、4月、7月、10月の年4回の開催、近畿例会は、10月、3月の年2回の開催です)。

発表を希望する方は、表現学会 HP の「[地区例会](#)」のページにある「地区例会連絡フォーム」よりお問い合わせください。

各地区例会開催に関する情報は、表現学会 HP「[地区例会](#)」のページをご覧ください。

❖◆ 広報委員会主催第2回オンライン例会報告 ◆❖

2025年3月29日(土)、広報委員会主催による2回目のオンライン例会を開催しました。昨年9月の第1回例会に引き続き、『直喩とは何か』(半沢幹一編)にちなんだ企画として、執筆者の稲益佐知子氏と三田寛真氏にご登壇いただきました。

○発表題目 『直喩とは何か』がちょっとわかってきた

○発表者(発表順)

稲益佐知子氏(日本体育大学・非)

「村上春樹『貧乏な叔母さんの話』の直喩からわかること」

三田寛真氏(東京大学・院)

「英語の俚諺収集における直喩の位置と特徴(を手がかりに)」

○司会・オーガナイザー

菊地礼氏(長野工業高等専門学校)・松浦光氏(埼玉学園大学)・湯浅千映子氏(大阪観光大学)

今回は、研究者だけではなく院生・学部生の方も多く参加していただき、会の広がりを実感しました。2名の先生方からは、「村上春樹作品の直喩」・「英語の諺の直喩」をテーマに観賞やクイズを楽しみながらも、表現の世界に惹き込まれるようなご発表がありました。私自身も前座として、ロックバンド Plastic Tree の歌詞の鑑賞を行いました。次回は、秋頃に新しいテーマでの第三弾の例会の開催を予定しております。オンライン例会が始まり、場所を問わず、自由に集える交流の場として拓かれてきました。研究の世界に足を踏み入れたばかりの院生・学部生にとっても道標となり、共に歩いていけるような会を目指していきたいです。(松浦 光)

【当日の発表内容】

稲益佐知子氏(日本体育大学・非)「村上春樹『貧乏な叔母さんの話』の直喩からわかること」

発表者は半沢幹一編『直喩とは何か：理論検証と実例分析』（ひつじ書房 2023）で、村上春樹「貧乏な叔母さんの話」の直喩を取り上げた。本発表でも同作品の特徴的な直喩表現を観察し、直喩としての解釈、半沢幹一氏が提唱する「比喩もどき」の可能性、直喩だからこそ読み手は比喩として理解しようとするのではという考え等を示した。「会話文の直喩表現」は全て主人公「僕」の発話であり、「地の文の直喩表現」ほど難解ではなかった。直喩以外の例としては、会話文における「諷喩」、地の文における「隱喩」等を取り上げた。そして、被発話者がいるという制限のかかる「会話」を切り口にして村上春樹作品の直喩（や直喩以外のレトリック）を見ていくことで、直喩がもうちょっとわかるかもしれないとした。

三田寛真氏（東京大学・院）「英語の俚諺収集における直喩の位置と特徴（を手がかりに）」

本発表では、英語の直喩が、主に頭韻の典型・単純形式としてことわざの一類型の地位を与えられてきたことを、それ自体は既によく知られている歴史的俚諺集において確認した。様態描写や強意といった意味論的観点とは異なるものとして、慣習の踏襲・再生そのものの標示、あるいは表現選択の主体性の回避の形態として直喩を捉える可能性を論じた。また直喩に言語対照や翻訳などからアプローチする場合には、当該言語での直喩の韻律上の立ち位置や慣習性の認識のあり方も問題になりうると述べた。学史的関心を出発点に共時的研究への示唆を得ることができたように思われる。

🍀◆ 表現学会ブログ公開のお知らせ ◆🍀

2025年4月より表現学会の[公式ブログ](#)を開設いたしました。

表現学会事務局からのお知らせや会員の皆さまが執筆した新刊書の紹介、表現学会事務局に届いた学会・研究会開催のお知らせなど、幅広い情報を随時更新しております。

表現学会 HP のトップページに「[表現学会ブログ](#)」のリンクがございます。ぜひご活用ください。

（表現学会事務局・表現学会広報委員会）

✿編集後記✿

現在の職場で、着任 2 年目になりました。この春に初めてゼミの卒業生を送り出したとしみじみとしていたら、フレッシュな新 1 年生が入ってきました。毎日、にぎやかです。ゼミ生とは共に成長できるような関係を築いていきたいですね。(松浦)

長野高専に着任して 2 年目になり、1 年生の学級担任を受け持つことになりました。大学生よりもさらに若い学生がたくさんいるため、若者言葉が生まれ、使われている現場を観察する機会に恵まれております。(菊地)

小学生の頃、「大人になった自分のために」と、FM でエアチェックして録りためた、好きな曲や当時のヒット曲を集めたカセットテープ数十本。テープは劣化し再生できませんが、今はサブスクのおかげで手軽にあの頃の曲に再会できます。幼い字で書かれた「インデックスカード」と同じ曲順で再生リストを作り、歌詞を追いながら聴いては、心をつかまれています。(湯浅)



広報委員が立ち上がり、まもなく一年を迎えます。広報委員 3 名で今号も 7 ページの「表現学会メールマガジン」を、ニュースレターの形でお届けしました。また、前号より PDF 形式となり、表現学会 HP の「[表現学会について](#)」のページにも掲載されたことで、非会員の方にも読んでいただけるようになりました。

このたび寄稿いただいた長沼先生、小林先生、石黒先生、稲益先生、三田先生にこの場を借りて御礼申し上げます。

本号では、第 62 表現学会全国大会に関する情報(会場の岐阜大学までの道案内など)を、HP に未掲載の情報も含めてご紹介しております。6 月の全国大会へご参加予定の皆さまは、ぜひ本メールマガジンをダウンロードの上、当日の参考資料としてお役立ていただければ幸いです。

今後も会員同士のつながりを感じていただき、会員の皆さまに親しんでいただけるよう、また、会員以外の方にも表現学会の活動を広くアピールできるような情報発信に努めてまいります。

メールマガジンで取り上げてほしい企画やメールマガジンを通して伝えたい情報・メッセージなどがございましたら、ぜひ表現学会メールマガジン専用アドレス

(hyogen-magazine@hyogen-gakkai-official.org)

までお知らせください。

(文責 表現学会広報委員会)



この画像は、表現学会をイメージして生成AIで作ったものです。

誌名：表現学会メールマガジン 第5号

発行日：2025年5月

発行者：表現学会広報委員会

発行所：お茶の水学術事業会内 表現学会担当

表現学会HP

<https://hyogen-gakkai-official.org/>

※配信停止・配信先変更については、
表現学会事務局

exp-info@npo-ochanomizu.org

にお知らせください。